

『国際協力のひとこま』 ⑨

★受託事業事例紹介 / マルチセクターで取り組む栄養改善 (南アジア or アフリカ諸国向け)

—副題 ; いろいろな視点で見る栄養問題 その3 (水・衛生) —

前回 (『国際協力のひとこま』⑧) 掲載を通じご紹介の JICA 海外ボランティア自身が赴任された地域の子供たちへの給水のための工夫は次のようなものでした。水は、生きていくに、最重要と言っても過言でないかと思います。飲むための水ばかりか、手洗いやうがい、農作物の栽培などなど、広く必要とされます。

ですが、一般に、どこにおいてもあって当たり前のものが十分に整っていない、つまり、水道など未整備な状況が少なくないのが途上国といっても、過言ではありません。一方、代替出来るようなものを確保することの難しさも感じます。筆者自身も途上国への赴任時に経験しましたが、安心して飲める水道水は、どこにでもなくて困ったのですが、ミネラルウォーター購入でしのぐのが一般的ですが、それなりのコストが必要です。途上国で購入する飲み物は、昔ながらの瓶詰のものもありますが、ペットボトル飲料が広く出回っています。この合成樹脂でつくられた、ある意味、ごみにしかならないペットボトル。でも、ものは考えようで、活用次第では有効な資源として考えることが出来る例かと思えます。

ボランティアさん自身のアイデアは、下記イメージ① (写真 (左)) の応用で、日本の児童向けにペットボトルの工作例を紹介したのですが、一方、JICA 海外ボランティアである彼の工夫例は、一昔日本でも使用していた手洗い器 (写真 (右)) の応用したものでした。具体的には、ペットボトルのキャップに穴を空けておき、必要な時に水が出る様、工夫し、キャップ部分を下にして、吊り下げる給水器として応用したものです。キャップに空けた穴に、くぎを内部から外に向けて差し込んでいて、吊り下げの給水器を使って、手洗いたいとき、その釘の部分を押し上げるという水が出るよう、考え出したのです。もちろん、使用する子供たちの手を傷めない様、釘の先端はまるくして安全性も配慮しています。

釘の太さとほぼ同じサイズのキャップに空けた穴ですので、釘の部分を下から上に押し上げると必要な分だけ、(釘と穴の隙間から) 少量の水が出てくるのですが、それは、釘の太さがテーパ状になっているところを、うまく利用したと思われまます。

イメージ写真①

(ペットボトルのキャップ部分に穴を空け)



ペットボトルで下写真の手洗い器代替



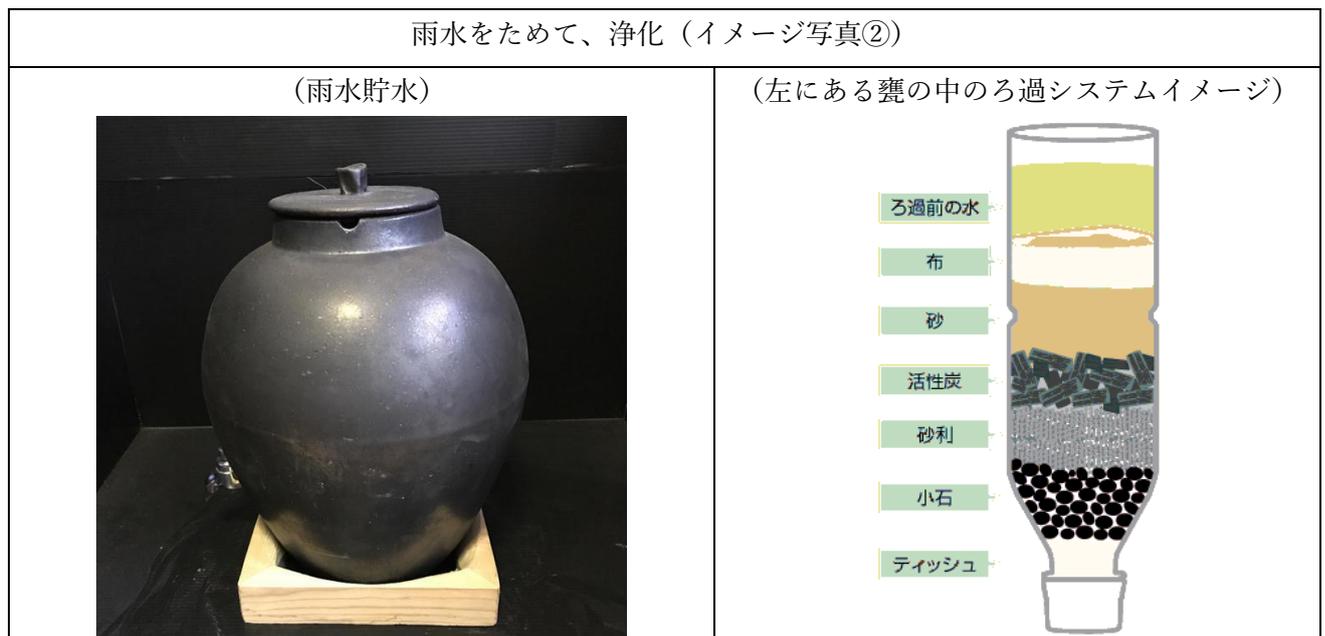
(写真は、日本製の昔懐かしきもの)

また、こうした工夫に加え、別の工夫も考えられており、それは多くのこどもたちが通ってくるので、人数分の手洗い水は、それなりの量が必要でした。(ペットボトルですと、何人もの子どもが使用することで、意外と水が不足するのです。) 急な坂道がつづく山村での水の確保は、寺子屋周辺 (山頂部に近いため)

にない井戸からといっても、水運びするのは容易いことではなかったもので、水を貯めておくことが必要でした。そのため、かなりの量の水を施設内に保管出来る様、水瓶のようなものを建物わきに備えました。さらに貯まる水の衛生状態に気を配り、少しでもきれいな状態を保てるよう、イメージ写真のように蓋を出来るものとし、雨水以外に落ち葉や虫など、ごみが入り込むのを防ぎ、蓋をかぶせています。さらに、貯めている水を少しでも浄化・ろ過することで衛生状態を少しでも改善するため、水瓶の内部に、砂や石を幾層か詰めて、微小なごみをろ過する機能を付け加えたりするなど、いくつもの工夫を水瓶に生かしていました。(参考；イメージ②；次頁)

彼のそうした配慮もあって、子供たちには、トイレ後の手洗いなど、習慣づけるきっかけになってきたそうです。

当法人が受け入れている研修員たちからも、日本での学びばかりでなく、日本の工夫事例の中に潜んでいる考え方などから応用、ヒントを得られるための応用する行動計画（アクションプラン）の検討もプログラム的一端に含め、皆で発表しあい、より実効性のあるアイデアを検討出来る様、進めています。本邦で学んだことを、そのままではなく、応用系として『10人十色』、『三人寄れば文殊の知恵』的に、工夫してみる、そのことで次々、現地の資源有効活用なアイデアが生まれるようなことが1つ1つ生み出されてくることが出来ればうれしいですね。さらに同地域に帰国した各研修員のそれぞれの工夫事例を、集約・共有（帰国後の実践例をフィードバックし、さらなる工夫のベース）することで、さらなる波及につなげることも出来ると幸いです。



今次の連載3部シリーズ（6月14日国際協力のひとこま⑦以降）で、【栄養】テーマを、多面的な視点からご紹介させていただきましたが、如何でしたでしょうか？途上国でのモノがない環境下での工夫とは、ちょっとした思考の転換することで、言われてみると、そうか？なるほどとなることがあるものです。現地に無いものを強請るのでなく、存るものから（限定的な見方でなく）まったく違う視点で、新たなアイデアとして気づく工夫が重要です。そんな工夫・アイデアを生み出すための自由度の高い思考プロセスは、誰にでも潜在しているはずですよ。

こうした小さな工夫・アイデアで、発展途上国の問題の解決の糸口になるようヒントを提供するのが、当方の研修事業であり、知見やノウハウ、アイデアを人から人へ伝える努力、継続的に支援事業を展開して行きたいと思えます。

以上

【補足】 これまでも3回の連載で、異なる視点での栄養問題に関連して参りましたが、1コース全体の研修プログラム上のキーワード（研修科目）を以下、ご紹介させていただきます。

<ul style="list-style-type: none">・食育推進計画と関連機関同士の連携・母乳育児と補完食・母子栄養と食育・WASH：手洗いの取り組み	<ul style="list-style-type: none">・ 公衆衛生・ 衛生環境改善から栄養改善・ 家庭菜園の取り組み・ 学校給食の取り組み
---	--

(文責・事務局 浅野)

#衛生 #手洗い #安心 #工夫 #アイデア